

みらいん

2013
11月

地域の方と皆さんと支援する人と!!
地域で生まれる
「ひとのわ」

これから住む「まち」特別編
北六番丁復興公営住宅レポート

住まいのコラム／被災地レポート／続ける支援
まちの語り場／読者からひとこと／記憶の写真館



「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

震災復興地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅での「コミュニティづくり」、生活再建に資する情報などをお届けするために、二〇二一年十二月に創刊されました。「みやぎの版」わかばやし版「たいはく版」を月一回発行し、これまでに二十三号をお届けしています。

今号は、住まいの再建の場となる移転先宅地や復興公営住宅周辺の地域情報、新たなコミュニティの創生というテーマも含めた形で、仙台市全域版の「みらいん」をお届けします。

次の一歩を踏み出すための情報紙として、応援の言葉をみつける冊子として、またはほっとひと息つく時の読み物として…。本紙が少しでもお役に立てれば幸いです。

「みらいん」編集部一同



表紙のひと

ひろあき 平山尋昭さん
もとこ 造子さん 親子

平山尋昭さんの父親は機械購入の負担軽減を考え、宮城野区岡田の新浜地域で共同農業を30年程前から進めていました。会社勤めをしていた尋昭さんはその遺志を継ぎ、現在は地域の仲間と共に農業に専念しています。津波被害で施設も農機具も流されて何も無い中、市から設備や機械のリースなどを受け、今年は10町歩を作付しました。待ちに待った収穫は、田植え時期が5月22日と遅かったことと、除塩をした田んぼでの3年ぶりの稲作ということが心配でしたが、「以前と同じ出来映えにほっとした」と、安堵の表情で語ります。

来年は地域の多くの方に協力を仰ぎながら、力を合わせて70町歩程度まで作付を広げる予定です。

農業の将来について、地域の若手世代の兄貴分である尋昭さんは、「さらなる作業の効率化を考えないといけない」と、広がる田んぼを眩しそうに眺めて話します。母親の造子さんは、「お父さんたちの跡を受け継いで欲しい。それに尽きる」と、若い世代の農業人たちのこれからを見守ります。

撮影場所／宮城野区岡田。左から平山尋昭さん、造子さん、地域の農業仲間の菊地誠二さん、平山英弘さん

住まいのコラム

住まいづくりは話し合いから！

住まいづくり、まず何から始めましょうか。いきなり住宅メーカーや専門家に相談する前に、家族で十分に話し合っておくことが、新居への近道です。住居に対する家族それぞれの希望をまとめることが、住まいづくりへの効率的な一歩となります。

家族全員で話し合しましょう

食事をしながらなどではなく、少し改まった雰囲気でも話し合みましょう。最初に家族全員の希望を出し合ってみます。家族の中でも年齢や職業によって生活パターンが異なりますから、住まいに対する考え方は違ってきます。実現可能かどうかは後回しにして、まず、家族それぞれの意見を尊重してお互いに話を聞いてみましょう。

間を決めておくのも良策です。

ヒント

家族で話し合いをする際には、今まで住んでいた家を参考にすることで、家族全員のイメージを共有できます。台所は以前より広くしたいとか、階段の形状は以前のままが良いとか、分かれやすい比較対象があれば、より具体的なプランを立てやすくなります。

ヒント

現在の家族状況に基づいたプランだけでなく、将来の家族構成や生活パターンについても分かる範囲で話し合うと、増改築の必要性なども浮かび上がってきます。

何度も話し合しましょう

毎週土曜日の朝など、家族全員が揃いやすい時間帯を選んで定期的に話し合しましょう。「今日は風呂場と台所について一時間」など、テーマと時



結果をまとめてみましょう

部屋数や間取り、和風か洋風か、特徴的なこだわりがあるかなどをまとめます。「これだけは実現したい」という特徴があれば列記します。例えば、ピアノ専用の部屋、魚をさばく大きなシンク、仏間や床の間がある和室、広くて安心な風呂場、などです。手描きでもかまわないので、図面を描いてみることも大事です。また、家の内部だけでなく、外構の考え方、植栽の種類、庭のつくり、駐車スペースなどの希望も列記しましょう。

ヒント

ここまでの話し合いをまとめることで、実際にハウスメーカーや設計者との話し合いが進めやすくなりますし、建築方法や構造が絞られます。また、モデルハウスなどを見学する際のチェックポイントがはつきりします。さらに、この間に金融機関などと相談して資金計画を立てましょう。

専門家に相談する

家族の意見がまとまったら、住宅メーカーや建築家に相談します。自分たちの希望する住まいに合った工法（木造・鉄骨造・コンクリート造など）

や業者を選定します。

実際に家を見てみる

住宅展示場やメーカー見学会を利用したり、建築家の建てた家や友人知人宅を見学しましょう。

このように、住まいに対する家族の希望をまとめておくことで、メーカーなどの話し合いがスムーズに進みます。建物内部の使用部材などは、資金計画に基づいた予算からその範囲が決まってきます。



参考

数世帯がまとまった移転を希望している方には、「共同発注」という方法もあります。同じ地区で同じ時期に同じ住宅メーカーを希望している人が共同で発注する方法です。この方法のメリットとして、建築費用の減額や工期の短縮が望めます。留意すべき点は、メーカーが限られることと建築する時期の調整が求められることです。

荒井東地区

今後の住まいの選択肢として、防災集団移転促進事業による移転や、復興公営住宅への入居などがあります。ここでは、皆さんの入居に向けて整備が進められる地区の様子と、周辺にお住まいの方の声をお届けします。



まちに住むひと

かつて、どこまでも水田が広がっていた荒井東地区は、『共助』の精神が地域をつないできました。新しく地域の仲間入りをする皆さんと共に、『助け合いのまち』はさらに発展します。



堀江達郎さん

下荒井町内会会長
下荒井地区民生・児童委員

「隣合う下荒井地区と荒井東地区は、各地区の住居同士が接することになりますから、当然住民同士の交流が多くなると思います。荒井東地区にできるであろう町内会や各団体と、早めに協力体制を取ればよいと考えています」



加藤正敏さん

六丁の目町内会会長

「六丁の目は昔からの農家を中心に、マンションやアパートも増えました。新しい住民とよい関係を作るには、高齢者から子どもまで楽しめるような工夫が必要です。荒井東地区も住民中心のまちづくりになるよう、私どもも応援します」



庄子恵子さん

中荒井地区民生・児童委員

「震災をきっかけにして、核家族化が進んでいると思います。同時に、環境の変化が高齢者へ与える影響を心配しています。七郷地区では、住民と移転してこられる方の間に壁をつくらないように心がけて活動しています」



矢野直美さん

七郷地域包括支援センター所長
保健師

「現在3名のスタッフが七郷中学校区を担当しています。七郷は、町内会の役員さんや民生委員さんが地域福祉に対して大変熱心なところですから、これから住む方々とも協力しあいながら共に活動したいです」

まちの施設

育児施設や医療機関が徒歩圏内。
スーパーや金融機関も身近で、子育てファミリーからシルバー世帯まで、安心・便利に暮らせるエリアです。



ヤマザワ荒井店

若林区荒井字大場伝45-3
022-288-8833
営業時間/9:30~22:00
(日曜日は9:00~)
休業日/無休

「健康元気」をモットーに近郊農家の野菜をはじめ、新鮮でお値ごろな生鮮品を取り揃え、地域の方の食生活を豊かにするべく、年中無休で営業しています。クリーニング店、フラワーショップ、七十七銀行ATM、宝くじ売場を併設しています。



七郷幼稚園

若林区荒井初田1-1
022-288-7773

1957年に幼児学級がスタートしてから「地域の幼稚園」として親しまれている七郷幼稚園。「心を育てるゆたかな保育」をモットーに、明るく元気な子どもを育てています。親子一緒にの活動や園児の預かり保育も行っています。



JA 仙台 七郷支店

若林区荒井字畑中68
022-288-5031

JA仙台では、組合員や地域にお住まいの方々の復興を、全力を挙げて支援しています。七郷支店では毎月21日(休業日の場合は前営業日)に「農とくらしの相談会」を開催し、震災復興に関する相談に対応しています。



はなクリニック

若林区荒井字高屋敷26-3
022-288-8777
診療時間/8:30~12:00、
14:00~18:00
休診日/木曜日・土曜日午後、日曜日、祝日

わかりやすく丁寧な説明に定評があるクリニック。内科、小児科、外科、肛門科の診療科目のほか、乳児健診、予防接種を行っています。また、携帯電話やパソコンから、予約や待ち状況の確認ができるインターネットサービスが利用できます。



東部地区の玄関口となるまち

仙台バイパスから産業道路を東に向かうと、仙台東インターチェンジがあります。このインターチェンジから、仙台東部道路に沿って南西側に位置するのが荒井東地区です。二〇一五年度に開通予定の地下鉄東西線荒井駅(仮称)の建設と並行して土地区画整理事業が進んでおり、水田が広がる風景から、近代的な街区へと変わりつつあります。

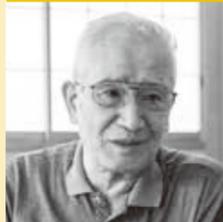
この荒井東地区では、復興公営住宅(写真①)が建設中で、住宅の設備や内装工事が行われています。また防災集団移転用の宅地は、五十二区画を整備しており、今年九月から申し込みを受け付けています。

駅、商業施設、医療・福祉施設、公共施設などが徒歩圏内に収まるコンパクトタウンを目指していて、北から南に、駅前賑わいゾーン・防災拠点ゾーン・住居ゾーンと並び、これらゾーンを緑豊かなシンボルロードで貫く計画になっています。

地下鉄駅や高速道路のインターチェンジに隣接し、街の機能がコンパクトにまとまった地区で、新しい仙台市東部に相応しい玄関口になるまちです。

まちに住むひと

農業の営みから住宅街へ。
まちの趣が変わっても
地域住民のつながりは
途絶えることはありません。



遠藤幸雄さん

若林広瀬親交町内会会長
若林地区町内連合会副会長(防災担当)

「若林地区では、防災に力を入れています。各町内会ではもちろんですが、地区全体として避難所運営に重点をおいた役割を決め災害に備えています。同じ地区の住民として新しく転居してきた方々をサポートしていきたいですね」



安達勝さん

若林地区社会福祉協議会会長

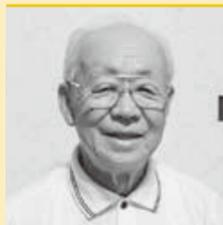
「1969年の設立当時から地域交流のために茶話会を続けています。現在は茶話会と、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方向けのサロンを月に1度ずつ開催しています。多い時には60人も参加するほど盛況です。皆様もご参加ください」



渡辺幸子さん

若林地区町内連合会婦人部代表
福祉委員

「運動会や敬老会、祭り、防災訓練などの地区をあげての催しをお手伝いしています。運動会では伝統の若林音頭を踊るのですが、地区の皆さんが参加するんですよ。各町内会の垣根を超えて、親交の深い地域です」



櫻田孝さん

仙台南地区交通安全協会若林支部支部長

「私たちは若林地区の皆さんとともに交通事故0を目標に、街頭での交通指導やチラシ配布など、マナーアップのための啓蒙活動に取り組んでいます。活動には地域の方も参加してくださっています。とても協力的で住みよいまちですよ」

まちの店・施設

伝統と自然が息づくまち。
昔ながらの個人商店のほか
新たな商業施設もオープンし
まちは一層の賑わいを見せています。



若林市民センター

若林区若林3-15-20
022-282-4541
開所時間/9:00~21:00
休館日/月曜日・祝日の翌日

1991年に開館した市民センターは、児童館も併設されており、幅広い年代の方々に利用されています。町内会の会合やサークル活動に活用されるほか、さまざまなイベントや講座が催され、地域住民の集いの場になっています。



ゼライスタウン若林

若林区若林2-7-35(ヨークベニマル)
電話番号、営業時間、定休日は各店舗により異なります

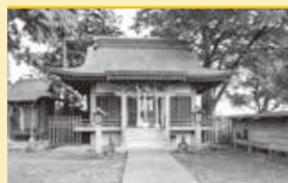
今年10月にオープンしたばかりの複合商業施設。食品スーパーのヨークベニマル、ドラッグストアのカワチ、100円ショップのセリアのほか、美容室やリラクゼーション店などのテナントも入っています。



若林小学校

若林区若林4-3-1
022-286-2735

1954年に開校し、進んで学ぶ子どもの育成に力を入れている若林小学校。地域とのつながりを大切にしており、地域の方が講師となって昔遊びや伝統七夕づくりの授業を行うなど、交流を深めています。



たびだち 旅立稲荷神社

若林区若林2-1-3
022-286-5103
例祭日 4月29日

京都伏見稲荷神社の分霊を勧請し建立されました。伊達政宗公が江戸へ参勤の折、道中の安全を祈願したことから旅立稲荷と呼ばれるようになり、現在も旅行安全、交通安全の神様として地域の方々から親しまれています。



これから住む「まち」②

若林地区



街中と自然が身近なエリア

上流を広瀬橋、下流を千代大橋に挟まれた広瀬川沿いに面している若林地区。古くは農業が盛んで、見渡す限り畑が広がりましたが、現在は民家が立ち並ぶ住宅街となっています。

地区のメイン通りとなっている井土長町線沿いには郵便局や金融機関、小売店などが揃っています。若林二丁目から仙台駅までバスで約十三分と街中へのアクセスが良好でありながら、自然を感じられることも地域の特徴です。広瀬川河川敷の広瀬川若林緑地では、地域の方々が散歩を楽しむ姿が見られます。そんな若林地区に建設中の(仮称)若林西復興公営住宅(写真①)は、交流・避難拠点となる開放的な広場と、入居者の利便性に配慮した民間企業との複合開発が特徴です。三棟百五十二戸のうち一棟の二十七戸はペットを飼育している方が入居可能。現在、一号棟は屋上階の床を施工中、二号棟は五階の床を施工中、三号棟は三階の柱・床を施工しており、それぞれの棟で工事が進められています(二〇二三年九月末現在)。二〇二四年三月中旬頃には広場、集会所も含め、工事が完了する予定です。

北六番丁復興公営住宅レポート

今年4月、仙台市ではじめて整備された北六番丁復興公営住宅。ここに、被災された12世帯が恒久的な住まいを構えました。ここでは、その住まいの間取りや設備のご紹介と共に、お住まいの方のコメントをお届けします。



このお宅に住む
佐藤 京子さん
佐藤 ゆう子さん

Q 住んでみてわかったこと
A バリアフリー設備が充実しています。最初から手すりなんかも付いているんですよ。各お部屋への移動がしやすい点はうれしいですね。

Q あると便利なもの
A 荷物が多いため、収納家具などで補っています。意外に湿気も多いので、防湿アイテムなどを使いしっかり除湿しています。

Q 入居してのご感想は？
A やっぱりホッとしましたよ。顔なじみの方も増えてきて、よく挨拶もするようになりました。毎日を楽しんで安心して過ごしています。

共用部



郵便受けのほか掲示板スペースもあり。エレベーターも完備

トイレ

ストレス知らずの室内掃除も楽々の広さ

室内にはバリアフリー用の手すりが付いています。引き戸は反対からも開くので、掃除が楽にできちゃいます。



浴室

手すりが付いて安心 24時間換気で湿気知らず

浴室の入り口は段差がなく安全。追炊機能も付いています。湯の温度調整はキッチンにあるパネルでも可能。



洋間

コンパクトながらも多用途に使える洋間

京子さんの寝室兼趣味の編み物部屋として使用中。取り付け口もあるので、エアコンを設置することも可能です。



押入

季節の衣類のほか布団などの収納も可能

和室にある押入は天袋付きの大容量です。ほか、玄関と浴室隣にも収納スペースあり。用途に応じて使い分けを。



今年4月に完成

北六番丁復興公営住宅 4Kタイプ



玄関

玄関はバリアフリー 下駄箱の設置もOK

部屋に上がる際の段差はほとんどありません。間口も十分に広いので、車椅子での出入りも楽々です。



キッチン

キッチン設備が充実 使い勝手の良いスペース



間取りのほぼ中央に位置し、台所としてだけではなく、食事室として使用することもできます。インターホンが備え付けられているので、訪問販売などへの対応も安心。キッチン設備も充実。シンクはほどよい大きさで使い勝手◎。もちろん給湯器も付いています。

洋間

開放感ある2つの洋間 窓も大きく明るい室内



台所から続く2間続きの洋室は、角部屋ということもあり採光も十分。各お部屋には窓と空気孔を設置。窓を閉めたままでも湿気の調整ができます。バルコニー側の洋間にはエアコン取り付け口があるので、設置は簡単。エアコンは各自で持ち込みます。

和室

い草の香りが落ち着く 日本人に欠かせない部屋



間取りの中で唯一の畳があるスペースになります。洋間・和室の照明器具は全て持ち込みで取り付けます。

佐藤さん宅のバルコニーではアサガオを育てています



バルコニー

集会所



建替え後に大きくなった集会所では交流イベントなどを実施

地域とのつながり

「佐藤さんたちが来てくれて、共用部のお掃除の時も活気がでてきたみたい」とほほ笑むのは、親の世代からここに住む北六住民会の江尻正子会長（写真右端）。「新しくこられた方は、皆さん協力的。サロンや紙芝居を一緒に楽しんでいます。これからもよろしくお願いしますね。」（江尻会長）

※この部屋の間取りは復興公営住宅の一例です。今後整備されるすべての復興公営住宅が同様の間取り・設備となるとは限りませんのでご注意ください

田子市民センター × 移転する方 × 地域の方
田子市民センター
「きずなステーション」



田子市民センター
林 裕子さん

地域ボランティア
木村良寛さん

地域ボランティア
大場美智子さん

田子市民センター
遠藤みよ子さん

林さんが手にしているのは、地域と移転する方をつなぐ目的で今年6月から偶数月に発行している「田子きずな通信」。11月のお茶会参加希望者は田子市民センター022-254-2721まで問い合わせ

宮城野区田子地域の復興公営住宅や戸建住宅用地には、今後被災された約六百世帯が移転する予定です。田子市民センターでは、移転する方と地域の方がうまくつながれるような役割に寄与する事業として、今年度から五年計画で「きずなステーション」という取り組みを始めました。「皆さんの移転時期に配慮し、私たちが長期的な考え方で、その時々に必要な体制で取り

組みたいと思います」と、職員の本さ ん。手始めの「オーブンクラス卓球」 初日は、卓球ボランティアの養成講座 を受講した十六名のほかに、地域住民 など六名が初参加。その中には「田子 きずな通信」を見た蒲生出身の方が さっそく参加し、田子の皆さんと運動 でリフレッシュしました。十一月二十日 には、コーヒーの淹れ方を教わるお茶 会を予定しています。

地域の方と皆さんと支援する人と!!

地域で生まれる「ひとのわ」

被災された方々が現在仮住まいをしている地域、またはこれから恒久的に住む地域で、「ひとのわ」を築く交流活動が生まれています。地域の方(町内会・民生委員・地区社会福祉協議会(以下、地区社協)など)、支援する方(自治体、支えあいセンター、市民センター、包括支援センターなど)、そして皆さんがひとつにつながる取り組みを紹介します。

片平地区まちづくり会



田子市民センター
「きずなステーション」



運動教室
「ここに元気会」



泉中央地区社協
「みなし仮設入居者
向けサロン」



南材地区
「住民と仮設入居者との
交流活動」



山田市民センター
「民謡・絆・ひまわりの会」



地域の方 × 移転する方 × 片平市民センター
「片平地区まちづくり会」

青葉区片平地区の皆さんが中心となり、二〇二〇年に立ち上がった「片平地区まちづくり会」。片平に復興公営住宅が建設されることを契機に、ガイドブック「ウェルカム片平」を制作しました。「地元を知ること、愛を深めよう」と、自ら取材し、歴史や現在の様子をとりまとめた地域誌「片平地区平成風土記」を元に、新たに防災マップや施設紹介を掲載。より生活に役立つ内容に

なっています。来年二月、片平の借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方に配布。今後、復興公営住宅に移転してくる方にも配布予定です。会長を務める今野均さんは、「住んでいる時間の長さは関係ないです。新しい住民の方にも片平を好きになって、自分たちのまちだと思っていただければと、優しい笑みを浮かべています」



片平市民センター
渡邊 操さん

片平地区まちづくり会
今野 均会長

片平市民センター
八嶋敏郎 館長

手にしているのは完成した「ウェルカム片平」。全68ページ、フルカラーで、2000部発行されました。冊子に関する問い合わせは片平市民センター022-227-5333まで

南材地区町内会連合会&南材地区社協
×参加者×若林区社協
南材地区「住民と仮設入居者との交流活動」

若林区
南材地区



若林区社協 菅原恭子さん
参加者 阿部伊勢松さん
南材地区町内会連合会・南材地区社協 荻野正浩会長

交流のきっかけとなった地域の広報誌「南材地区だより」を手に笑顔の皆さん

市内外から移転した百世帯近くの被災世帯が暮らす若林区南材地区。震災直後に地区内の八軒中学校に避難した津波被災者をひと月にわたりサポートしたこともあり、被災された方との関わりが深い地区です。南材地区町内会連合会と地区社協の会長を兼務する荻野正浩さんは、地域の借り上げ民間賃貸住宅に住む方に対し「この土地になじんでもらいたい」と考え、住民との交流に力を入れています。これまで、若林区社協や支えあいセンターと連携しながら、被災世帯への地域広報誌配布、サロン活動や祭りへの参加呼びかけ、地域を知ってもらうためのまち歩きイベントなどを行いました。一連の活動の甲斐もあり、南材地区への転入を決めた方もいたそうです。「気持ちのいいまちですね」そんな声がうれしかったと話す荻野さんです。

太白区山田
山田市民センター×移転した方×地域の方
山田市民センター「民謡・絆・ひまわりの会」



市民企画委員 佐藤静子さん
市民企画委員 秋葉トイさん
山田市民センター 高橋恵子さん
移転した方 今野律子さん
移転した方 江戸川 仁さん
会員 小島秀子さん
会員 我妻真寿美さん

「難しいことは何も無い。仲良く楽しく唄うだけ」と江戸川さん。会の唄「民謡で絆ひまわり音頭」は会員の小島秀子さん、我妻真寿美さんが作詞しました

「はい掛け声！アソソソソソ！」。津軽三味線奏者の江戸川仁さんと民謡を楽しむ方々とのやり取りが会場に響き渡ります。太白区山田市民センター主催の、被災された方と地域の方を結ぶ市民企画講座「絆カフエ」に、震災を機に石巻市から太白区羽黒台へ移転した江戸川さんを招いたことから新たなサークル活動「民謡・絆・ひまわりの会」が生まれました。地域の市民企画委員も支援し二十八名が在籍、月に二回活動しています。「一般的な交流会だと地域や支援者主導で被災された方を支援しますが、こちらは『お世話してくれたい地域に恩返しをしたい』意志を持った江戸川さんを募る交流会」と職員の高橋恵子さん。民謡の力が人をつなぎます。先般出来上がった会の唄を「いつか太白区民皆で唄えるようになりたい」と希望を胸にする皆さんです。

太白区西中田
太白区家庭健康課×仙台市健康増進センター×参加者×地域サポーター×中田西部地区社協×西中田地域包括支援センター
運動教室「にこにこ元気会」



地域サポーター 菊地 幸さん
地域サポーター 遠藤涼子さん
参加者 遊佐かすみさん
参加者 歌川喜恵子さん
参加者 佐藤かね子さん
仙台市健康増進センター 佐々木麻衣さん
太白区家庭健康課 佐藤静香さん

体操を終えて、スッキリとした笑顔をはる皆さんです

太白区西中田市営住宅では、一部が借り上げ公営住宅になったことを機に運動教室「にこにこ元気会」を開始しました。太白区家庭健康課を中心に、仙台市健康増進センターや中田西部地区社協、西中田地域包括支援センターが連携した事業でしたが、今では地域の方がサポーターとなり、進行役を務めるなど、活動を支えています。サポーターの遠藤涼子さんは「被災して転居してきた方も、元からの地域住民も、区別することなく同じ地域に住む人として受け入れていきます」と語ります。参加者のお一人は「なかなか地域の輪に入れずにいましたが、会を通して顔なじみになって、今ではお裾分けし合うような仲になりました」と、笑顔のをぞかせました。参加者皆さんの体だけではなく心も元気に。にこにこ元気会の活動は続きます。

泉区泉中央
泉中央地区社協×参加者×支えあいセンターいずみ
泉中央地区社協「みなし仮設入居者向けサロン」



支えあいセンターいずみ 武田信子さん
参加者 古澤ミサさん
参加者 古澤功三さん
泉中央地区社協 木村和夫さん

手にしているのは、功三さんがサロンで作成した灯籠の絵と、ミサさんが牛乳パックで作った小物入れ。サロン参加希望者は泉区社協022-372-1581まで問い合わせ

「向こう岸から流れる灯籠を見て、あつあれが私の描いた灯籠だとわかりました」と語るのは、岩手県大槌町で被災した古澤功三さんです。「ふるさと大槌を思わない日はなかったです。特に震災で五十年来の親友を失ったことが悲しくて辛くて。その思いを灯籠に込めました」と、妻のミサさんは語ります。今年八月に開催された地域の夏祭り「ふるさと大槌を思わない日はなかったです。特に震災で五十年来の親友を失ったことが悲しくて辛くて。その思いを灯籠に込めました」と、妻のミサさんは語ります。今年八月に開催された地域の夏祭り

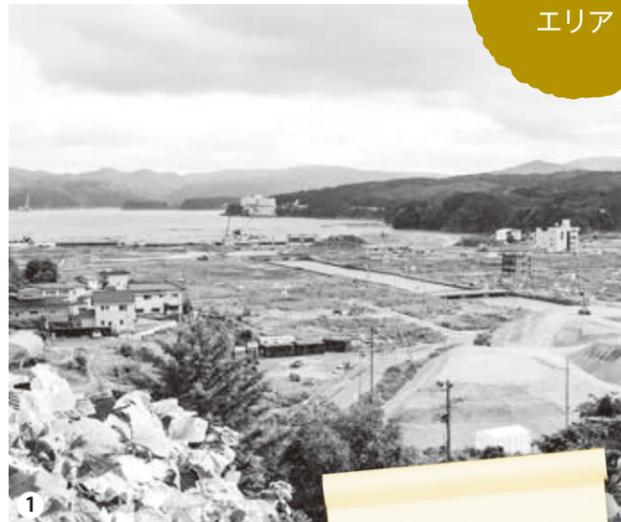
で灯籠流しを企画した泉中央地区社協の木村和夫さんは「泉中央に避難されている方に、地域住民として出来る事はないか、とサロンでの灯籠の作成を企画しました」と語ります。ミサさんは「あの灯籠流しの夜に、今までどんなに願っても夢で会えなかった友人が夢に現れてくれたんです。それからずっと気持ちが楽になりました」と、教えてくれました。

被災地レポート

取材地

南三陸町エリア／山元町エリア

南三陸町 エリア



①志津川小学校校庭に建つ仮設住宅を背に市街地を望みます②トンネルを抜けると美しい海原が広がります③近い将来には艇庫を完成させることを目標にしています④(左から)生産者の千葉孝浩さん、スタッフの阿部未来さん、館長の小野勝良さん⑤チリ地震津波災害復興30周年の1990年にチリ共和国から贈られた像



造成工事がスタート

南三陸町は、海へと注ぐ五つの河川の水源が全て町内から発する、まさに山と海が一体でつながる、全国でも稀有な地域です。町内ほぼ全域が甚大な津波被害に遭ったため、住民の多くが現在も仮設住宅などで生活しています。町は今年度を「生活・住宅再建元年」と位置付け、造成工事に着手しています①。現在、仮設診療所などで運営している公立志津川病院は、二〇一五年度開業を目指して、八月から造成工事が始まりました。

昨年、柳津から気仙沼まで本格運用されたJ R気仙沼線BRT(バス高速輸送システム)②は、今年九月、一部区間で線路やトンネルを活用する専用道の供用が開始。志津川駅や「さんさん商店街」の隣接地では、二〇一五年度供用開始を目指し、三陸自動車道志津川インターチェンジ(仮称)工事が進められています。

自然と共にある生活を再び

県内有数の海洋研修施設である戸倉地区「宮城県志津川自然の家」③を訪ねました。町民が県に社会教育施設建設を陳情し、「海洋青年の家」として始まった同施設は、**海青**の愛称で親しまれていました。今年度から「いかだづくり」など一部海洋活動を再開し、主催事業「サマーチャレンジ」には、県内全域から子どもたちが多数参加しました。

今年十月、開店一周年を迎えた歌津地区「南三陸直売所みなさん館」④。「新鮮な農産物売場の場に加え、地域交流の場でもあります」と、小野勝良館長。海沿いの松原公園に建てられていたモアイ像の頭部⑤が震災後に発見され、今は高台の志津川高校から町内を見守っています。また、防災無線が再開した昨春からは、長く町民に愛されていた曲「ひころの風」が十七時に町内全域に流れ、家路へと誘います。

三つの街区を核に整備進行中

沿岸地域が甚大な被害に見舞われた山元町では、多方面で復興の兆しが見え始めました。漁業では特産のホッキ貝を、海底に水流を当て浮かせて獲る「噴流式漁法」での漁再開を目指して試験操業中。交通インフラは、内陸寄りへ線路を移す常磐線が地権者に対して用地交渉中で、来春からの工事着手、その数年後の運行を目指しています。常磐自動車道は来年度内に福島県相馬市まで開通予定です。

町の中心部だった旧山下駅周辺①では、人口が大きく減ったものの、修繕する家屋も見られ、集落再生が進みます。町では震災復興計画を策定、三街区(新山下・新坂元各駅周辺、合戦原医療福祉地区)で二〇一六年入居を目指した計六百戸の災害公営住宅の整備を進めています。新山下駅周辺②では五十戸が入居済みで、隣接して建築中の二十五戸は二〇一四年一月頃に入居出来る予定です。

産業創出は残ったぶどうの樹から

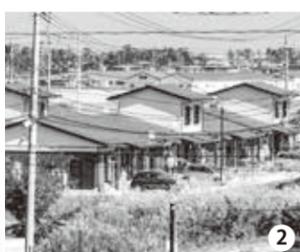
桔梗屋長兵衛商店の奇跡的に残った三本のブドウの樹を活かしたワイナリー再建と、緑豊かなブドウ畑の景観創出を目指しているのが「山元ワインヴィレッジプロジェクト」の方々③。町の将来を見据え、雇用を生み出し人口流失を防ぐと活動を始めています。「住居建築禁止区域内での事業。ここをよみがえらせることが本場の復興」と、メンバーで自身もブドウ液を製造販売する田所林一人は力を込めます。来年、レストランを先行オープンさせる計画です。

農産品の要、イチゴは、再起を目指す生産者のイチゴ団地④の一部が今夏整備完了し、間もなく収穫が始まります。合戦原仮設住宅へ移転した渡邊佳仁さん一家が切り盛りする「金ちゃんラーメン」⑤は自家製の平打ち縮れ麺が名物。他地域から復興事業で来ているお客さんも多く、渡邊さんの励みになっています。

山元町 エリア



①9月下旬の旧山下駅前付近。右奥に見えるのが簡易郵便局②新山下駅周辺。県内で最も早く建設された災害公営住宅③ワイナリー構想とブドウの6次産業化を目指す毛利親房さん(左)と田所林一人さん④生産者52戸のうち36戸分のイチゴ団地が今夏完了⑤お勧めは味噌チャーシュー麺



交流サロン

仙台市外から避難されている方の

宮城・岩手沿岸部交流会

主催/青葉区家庭健康課

- 11月27日(水)10:00~12:00
- 青葉区役所2階(青葉区上杉1-5-1)
- 茶話会、ミニ健康講話、ストレッチ体操(参加無料)
- 対象/震災後に宮城・岩手県沿岸部(市内を除く)から市内に転入された方
- はじめて参加される方は要申込(電話)
- 問・申込/青葉区家庭健康課
- TEL:022-225-7211(内線6785)

第16回鳴瀬サロン

主催/鳴瀬サロン

- 11月9日(土)10:00~12:00
- 青葉区中央市民センター(青葉区一番町2-1-4)
- 室内芋煮交流会(材料費300円)
- 対象/東松島市鳴瀬地区で被災された方
- はじめて参加される方は要申込(電話)
- 問・申込/鳴瀬サロン事務局
- TEL:080-5562-9218(高橋)

双萩会

主催/双萩会

- 11月26日(火)14:00~17:00
- 青葉区中央市民センター(青葉区一番町2-1-4)
- 茶話会および双萩町長との懇談会(参加無料)
- 対象/福島県双萩町で被災された方
- 申し込み不要
- 問・申込/双萩会事務局
- TEL:090-3642-3661(阿部)

「みやぶく DE 和むっちゃ」第3回

主催/支えあいセンターわかばやし

- 11月28日(木)10:00~12:00
- 若林区中央市民センター別棟
- クリスマスリースをつくらう(参加無料)
- 対象/宮城県沿岸部、福島県から避難されている方
- 要申込(電話)
- 問・申込/支えあいセンターわかばやし
- TEL:022-781-0559

※他にもさまざまな方を対象としたサロンを開催。詳しくは中核支えあいセンター(TEL:022-217-7234)まで

名取市常設サロン

主催/名取市サポートセンター「どっと.なとり」

- 月~金曜日 9:00~16:30
- 柳生サロン:(太白区柳生4-3-12 ハイツリユミエール104号室)
- 各種イベントを実施。詳細は要問い合わせ(参加無料)
- 対象/名取市で被災され、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方
- 申し込み不要
- 問・申込/柳生サロン TEL:022-797-2017



杜の都チーム ドルフィンドリームの ふれ愛支援

東日本震災から二年半あまり。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々があります。地域に根づいて支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

心と体の健康を目指して 続ける支援

足の裏、ふくらはぎ、弁慶の泣き所……。オイルをたっぷり取った手が、時に優しく時に力強く、各所を揉みほぐしていきます。



仮設住宅の集会所でトリートメントを行うドルフィンドリームのメンバー

宮城野区にある仙台港背後地六号公園仮設住宅の集会所。支援団体「杜の都チームドルフィンドリーム」に

よるふれあいには、仮設住宅内の数ある支援活動の中でも特に人気のメニューです。

いつもは机が並ぶ集会所が月一回、リラクゼーションルームに早変わりします。折りたたみ式のベッドが三台並べられ、ゆったりとしたリズムのBGMが流れます。

手足のトリートメントはマンツーマンが基本です。心身の調子や暮らしの状態を聞き取ったスタッフが自ら施術します。オイルはあえて無香料。アロマオイルの香りが苦手な人もいるからです。オイルが肌に合わない人にはパウダーを用いるなど気を配っています。

トリートメントは医療行為ではありません。しかし、誰かに心を込めて触れられる心地良さは格別。気持ちよさのあまり、寝入ってしまう人も少なくありません。

「ああ、気持ち良かった」「体が軽くなったよ。ありがとう」
両足と両手で三十分あまりの夢時間、あっといふ間です。施術を受けた人のほとんどが、次回の予約をしていきます。

現在の定期的な巡回先は、仙台港背後地六号公園仮設住宅、荒井小学校用地仮設住宅、あすと長町仮設住宅の三カ所。ほかに石巻市や岩手県宮古市の仮設住宅も訪問しています。これまで、通算百五十回の訪問を重ねてきました。

「心と体は一つ。ふれあいを通して、皆さんの心と体の状態を感じ取ることが私たちの役割です」。ドルフィンドリーム代表のセラピスト、天野龍さんは話します。施術の様子や会話から心身の状態を推し量り、場合によっては医療機関の受診や公的機関への相談などを勧めるこ



触れ合うほど、心もほぐれていく

簡単な手技法を伝授し、その日うちに施術を担ってもらう試みを始めました。千人のボランティアの参加を目標に掲げ、名付けて「ふれあい1000プロジェクト」。取材した

九月初めの時点では、四百二十九人まで共感の輪を広げられました。下は五歳から上は六十代まで、これまで幅広い世代のボランティアさんが参加してきました。「他人の体に触れることに対するためらいがなくなったか、子どもたちがとても上手なんです」。天野さんは一層の広がり

に期待します。取材日は四人のボランティアさんが来ていました。被災地で汗するのは全員が初めてでした。このうち岐阜県の大学生の桐生幸さんは、半日あまりで四人をケア。施術中、こんなつぶやきを耳にしました。

「お金がある人は仮設住宅を出て新しい家に移れる。自分もそうしたいが、先立つものがない」「オリピック開催地が東京に決まったのはうれしいけど、被災地の復興はどうなるのか」。かける言葉が見つからなかったと言います。

それでも「気持ちいいと喜んでもらえてうれしかった。心の距離が少

し縮まった気がします」。被災地の力になれたことを噛み締めます。

支援を続けるために リラクゼーションサロンを開設

仮設住宅で暮らす人たちへの施術と被災された女性の自立支援を両立させながら、ボランティアの受け皿にもなってきたドルフィンドリームは昨年、若林区に新たな拠点を開きました。

「COCOKARA SALON」。仮設住宅での施術は無料ですが、サロンでのサービスは有料です。収益はボランティア活動の資金となり、同時にセラピストの生活の糧ともなります。

店名には「心と体をケアする場所」



事業で上げた収益を支えに、ボランティア活動を展開する「COCOKARA SALON」

**杜の都チームドルフィンドリーム
11月の活動日程**

7日(木) あすと長町仮設住宅
21日(木) 仙台港背後地6号公園仮設住宅
両日とも9:30受付開始。施術は10:30~15:00

対象／当該仮設住宅入居者
希望者は当日仮設集会所を訪ねてください

問い合わせ／COCOKARA SALON
若林区六丁の目南町9-38 庄子ビル1F
TEL：022-290-6733
10:00~21:00(最終受付19:00) 不定休
http://www.cocokarasalon.jp

取材：大沼遼@東北大学 情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。
http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/ より(地域SNS「ふらっと」) ブログ



ドルフィンドリーム代表の天野龍さん。「寄り添うことがセラピストの役割」と語る

ドルフィンドリームは二〇一一年四月に産声を上げました。特徴は、スタッフもまた、震災で住まいや仕事を失った境遇にあるということです。

現在のメンバーは天野さんを含め三十〜四十代の女性九人。震災前は主婦だったり、ホテル業だったり、違う道を行ってました。天野さん主宰のセラピー資格取得専門学校で学び、支援活動でスキルに磨きをかけながら、将来的にセラピストとして自立することを目指しています。

それでも、広い被災地で多くの人にボランティアを体感してもらいために、スタッフだけでは手が足りません。そこで団体発足から一年経った昨年四月からは、全国から訪れるボランティアさんに九十分間、

ま ち の 語 り 場

宮城野区

中野小学校区 復興対策委員会

中野地区四町内会(港・蒲生・西原・和田)が丸となり、復興に向けた活動を行っています。

十月六日(日)定例会議

内 容

- 復興公営住宅優先入居応募状況
- 蒲生北部区画整理事業

当日の様子

復興事業局から、復興公営住宅優先入居対象者の応募速報値として、田子西地区百七十六戸募集に対して三十四世帯、荒井東地区が百九十七戸募集に対して五十九世帯応募の報告がありました。また、「蒲生北部区画整理事業・事業計画中間案と都市計画変更説明会」の報告と今後の説明がありました。震災メモリアル事業について、兵庫県の事例紹介がありました。



問い合わせ先
委員長 高橋 実 022-258-3068
定例会議
毎月第1、第3日曜日 16:00~
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

若林区

荒浜復興公営住宅 (戸建) 推進協議会

戸建の復興公営住宅を希望する方々の勉強会です。

九月三十日(月)意見交換会

内 容

- 要望書作成のための聞き取り

当日の様子

仙台市への要望をまとめるために、参加者から戸建公営住宅への希望を聞き取りました。主な意見として「戸建公営住宅を数十軒単位でまとめて欲しい」「園芸センター付近につくって欲しい」「敷金や引越し費用の負担軽減をもっと考えて欲しい」「地下鉄開通に伴うバス路線の変更は早めに知らせて欲しい」などが出され、十月中にまとめるよう協議しました。



問い合わせ先
代表 渡辺勝江 (問い合わせがある場合は直接定例会場においでください)
定例会議
第2・4日曜日 13:30~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

若林区

荒浜移転 まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

九月二十七日(金)定例会議

内 容

- アンケートについて協議
- 仙台市からの報告

当日の様子

主に荒井西地区を希望する会員を対象に、住宅建築の共同発注に関するアンケートを実施することが話し合われました。共同発注することにより、建築費用の削減や工期の短縮などのメリットが期待されますが、その導入方法などを検討しました。また、仙台市からは、荒井東地区の宅地申し込みが始まったことや同地区の説明会の日程などが報告されました。



問い合わせ先
代表 末永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においでください)
定例会議
第2・4日曜日 19:00~
サンピア2F 会議室4

若林区

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って文化の再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

九月二十一日(土)イベント参加

内 容

- 市民公開講座で報告会

当日の様子

東北工業大学一番町ロビーで開催された『手しごと秋保彩り展』と海と森を繋ぐ名取川「わ」プロジェクトの市民公開講座にて、会員が被災地荒浜の現状を報告し、参加者と熱心な話し合いを行いました。会場には、荒浜の素材を使用した秋保職人の作品(木工品や陶器など)が展示され、名取川の上流と下流の地域をつなぐ活動として、市民の関心を集めました。



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎週日曜日 19:00~
荒井小学校用地仮設住宅集会所

読者から ひとこと

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせをお届けするコーナーです。お茶飲みしながら、のんびり読んでくださいね。

●震災から二年半が経ち、皆が私たちの事を忘れてしまったんじゃないかなと不安です。でも考えてみれば、自分たちもそうだったんですよ。阪神淡路大震災の時、時間が経つにつれ記憶が薄れていました。今になって当時の被災された方々の気持ちが分かります。 遠藤利恵さん

●支援に来てくれた人たちと季節の挨拶状をやり取りしています。ヘタクソだけと絵を描いてメッセージを添えてね。地域のこと、自分のこと、明るい報告ができるようになると思います。 渡辺和子さん

●宮城野区の扇町一丁目仮設住宅に私たちは二〇一一年六月に入ったけれど、お互い全く知らない者同士で、話をするようになったのはごく最近。今後はなるようにしかならないけれど、仲良くなった人と一緒にいられると良いね。お嫁さんや孫がたまに来てくれて有り難いです。 齋藤もよ子さん・辺見文子さん

●お彼岸に実家の岩手県久慈市に帰

りました。震災で電車が全線開通していないにもかかわらず、テレビドラマの効果で市内は観光客ですごい賑わいでした。ドラマが終ってもずっとまちが賑わうといいですね。 増田昌子さん

●子ども会主催で「南蒲生復興祭」を行いました。会場の専念寺や町内会各団体の協力を受けて、たくさんの方が集まってくれました。六月から準備を始めて、徐々に皆が一体になっていきました。このお祭りをきっかけに、明るく、前向きに進んで行けたらいいですね。 斉藤千春さん



●好きな川柳でひとこと。「お迎えはどこから来るのと孫が聞く」「こ

の町で／ラストランを／演じます」

高橋 實さん

●若林区の借り上げ民間賃貸住宅から週二回はデイサービスに出かけて、家にいる日は家事の合間に手芸をしています。ただ、足が悪いので手芸の材料を買うのは人にお願ひしなきゃいけないの。好きな時に行けるといいんだけどね。 佐藤よしみさん

●仮設住宅集会所に、奇跡のトランベッター・大野俊三さんが来て演奏してくれました。昔からジャズが好きだったので楽しみにしていました。やはり生演奏は素晴らしい。また聞きたいなあ。 此田勝男さん

●復興公営住宅への入居を希望していますが、ペットを飼っているので申し込み先が限定されてしまいます。どこに入れるのか、こればかりはまだ分かりませんね。愛猫のゴン太と離れて暮らすことは考えられないので、希望地域と一緒に入居できる日を首を長くして待っています。 丹野礼子さん

●今住んでいる借り上げ公営住宅が復興公営住宅として改修されるため、工事期間中は入居者全員が別々の場所に住むことになりました。転居する前に開催する収穫祭は、お住まいの方や地域の方も交え盛大に行いたいと思います。 阿部利一さん

●太白区文化センター楽楽ホールで上演された「わがまち ながまち 愛のまち」という創作劇に出演しました。芝居は初めてでしたが、とても楽しかったです。これからもいろいろなことに挑戦して、出会いを広げたいですね。震災を経験して、ものよりのもとのつながりの大切さを感じています。 鈴木良一さん



※記載している内容は、各開催日現在の情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



東六郷地区

仙台市の南東部に位置する若林区の六郷地区。古くから農耕が営まれてきた穀倉地帯です。地区東部の二木、三本塚、種次、井土、藤塚の5つの集落は東六郷と呼ばれ、海辺と田園が共存する風光明媚な地域でした。

田植えをしている写真は1961年、三本塚の様子です。農機が導入されていない当時、地域で協力して手植えを行いました。その左隣の食事をとる写真は2010年の田植え後に皆で食事を楽しむ様子です。時代が進んでも人のつながりは健在でした。その下で、背伸びをしてニワトリに餌をあげる男の子の写真は1950年代の様子です。この頃、多くの家庭では養鶏を行っていました。自給自足の生活では、子どもたち

も家の仕事をよく手伝っていたそうです。右下も同じ時代に撮影された葬列の様子です。女性が白い布でほっかむりをするのは、現代ではあまりみられなくなった風習です。

左下の運動会の様子は1962年、東六郷小学校で撮影されたもの。1873年に開校し、現在は六郷中学校に間借りしていますが、種次の田園に囲まれた本校舎は今も地元の方々にとって思い出の学び舎となっています。真ん中の写真に写るのは1990年代、井土浜の田んぼ一面に積もった雪の上でそり遊びをする女の子。右隣は井土浦川で釣りを楽しむ方々です。東六郷の豊かな自然は、子どもも大人も楽しめる最高の遊び場でした。

写真提供

写真提供／大友よしえ様、菊地裕子様、若林区まちづくり推進課(若林の原風景探検)、若林区中央市民センター協力／佐藤勝五郎様、庄司壽夫様、六郷市民センター、RE:プロジェクト、20世紀アーカイブ仙台

写真提供に協力してくれた「RE:プロジェクト」がコーディネーターを務める催しが開催されます。「仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」 見たこと・聞いたことを言葉で伝える」11月16日(土)13:00~17:15 仙台市市民活動サポートセンター(青葉区一番町4-1-3)

申込不要・入場無料 問/仙台市市民協働推進課 022-214-8002